



平成24年度活動報告

平成24年度の活動内容を次のご報告申し上げます。平成24年度には国際村一番地部の市内各種団体行事への出店参加や、文化教養部会の二つの新しい企画、及び海外都市交流部会の韓国仁荷大学校交流会など活動の幅が広がった一年だったように思います。本報告をご覧いただき、これからも全会員一丸となって積極的な活動を展開できるようにこころがけましょう。

平成24年6月10日(日)

国際村一番地 第9回国際交流フェスティバル (国際村一番地部会)

9回目になった「国際村一番地 国際交流フェスティバル」は獨協大学と共催で「35周年記念館・天野貞祐記念館及び関連広場」を会場に開催しました。

世界の音楽とダンス・世界の衣装と文化体験・世界の食べ物・ワールドバザール・ワールドカフェ・獨協大学交流文化学科などのセクションに、28か国の外国籍市民が参加して来場者を迎えました。獨協大学がオープンキャンパスやシャンソンコンサートを同時開催したこともあり、高校生から年配者まで6,000人にぎわいました。

毎年、獨協大学生がボランティアとして活躍してくれますが、今年は草加高校生も加わり、東日本被災者支援基金の募金等に力を発揮し、今後のフェスティバルの展開に希望を与えてくれました。

平成25年は 6月9日(日) 開催予定!



美しい衣装と笑顔でロシアのダンスを披露!

市内各種団体のイベントに積極的に参加し、国際交流を深め、異文化交流につとめました (国際村一番地部会)

平成24年7月21日(土)~22日(日)

草加駅前よさこいサンパフェスティバル

会場: 草加駅西口通り

会員のブラジル・ヴェトナム・イラン・トルコ・パキスタン・ペルー・ロシア・タイ等10店がお国自慢の屋台をだし市民交流しました。主催者が「世界の美味いもん市」と名付け応援。メニュー一覧と出店が国際交流協会の会員であることを載せたチラシを1,500枚配り国際村一番地をPRしました。

平成24年9月30日(日)

第10回草加宿場まつり

会場: 高砂1丁目 市役所北側通り

「はいから横町グルメ市」と名付けられ、草加B級グルメと同じ通りに出店しました。地元出身オリンピック選手が乗車したパレードなどひっきりなしに通行する道路際だったため、かなりの人出でにぎわいました。よさこいサンパフェスティバルと同様にメニューの一覧とふささらまつりの予告を入れたチラシを市民に配布して喜ばれました。

平成24年11月3日(祝)～4日(日)
第4回草加ふささらまつり



晴天の下で多くの人が国際村を満喫

会場：草加市文化会館前広場（駐車場）
当協会も実行委員会に加わり、会議を重ねながらの参加となりました。同じ会場で、草加青年会議所担当の青少年向け事業とタイアップすることもできました。

会場内のステージにも2日間にわたり多くの時間を当協会が企画し、アフリカンミュージック・中国の京劇・タイ舞踊・インド舞踊・ロシアダンスなどを披露しました。屋台は食べ物や雑貨など15か国18店が連なり、「こんにちは」「ありがとう」と母国のことばで書いたカードを店先に貼りだして市民との交流を楽しみました。

～世界の仲間と友達になろう～ (Communication & Friendship)
「国際交流パーティー」開催 (市内交流部会)

平成25年1月13日(日)



ダンスや料理を楽しみ話も盛り上がりました

市内交流部会では、市内交流団体や外国籍市民との交流を楽しんでもらおうと「国際交流パーティー」を1月13日(日)、高砂コミュニティセンターで開催しました。加藤協会会長の挨拶と獨協大学国際親善倶楽部代表相沢さんの乾杯でパーティーが始まり、当日の参加者は一般市民・外国籍市民・日本語教室の皆さん・獨協大学留学生・各種団体の皆さん等142名(うち外国籍市民38名)の参加がありました。

ペルーのダンス・ギター演奏・獨協大学生の英語劇とダンス・ゲーム等でパーティーも盛り上がり、各人それぞれ交流・親睦を深めました。

また、トルコ・ペルー・タイ・ロシア・パキスタン等のお菓子・ケーキもあり、各国それぞれの味も堪能しました。

平成25年2月18日(月)

第2回 韓国仁荷大学校現場実習生との交流会 (海外都市交流部会)

獨協大学協力提携校 韓国仁荷大学の学生12名と引率者3名が現場実習のため、2月12日から10日間来草するにあたり、市民との交流会と一泊ホームステイの受入れをお願いしたいと要請がありました。

2回目の今回は、草加市日韓友好協会との連携に加えて日本文化紹介・体験を企画し、市内で活躍している団体に協力をお願いした結果、日本の家庭

料理を草加市くらしの会(代表尾上紀氏)、茶道を草加市茶道協会(代表豊田幸子氏)、筆を夢寿美の会(代表白橋昌江氏)、着物着付けを着付けサークル(代表野口智巳氏)の方々が快く引き受けて下さり、多くの市民との交流が実現しました。

ご協力を頂いた各団体の方々には厚く御礼を申し上げます。

2月18日は中央公民館で午後(次ページに続く)

(前のページより) 1時から、交流会当日は還付申告受付初日とあって、混雑が心配されましたが、プログラムどおり料理実習のグループごとに茶道の手ほどきと筆の演奏を聴き、床の間の掛け軸や生花のおもてなしへの説明もきちんと正座して聞き、堂々たる異文化体験でした。

その後、出来上がった炊き込みご飯と豚汁、トッポギとホトックの両国の料理を頂き、和気あいあいと日本語・韓国語でグループ毎の会話を楽しみました。最後に学生全員が前に出て一人一人日本語で挨拶し、参加者40人全員で「アリラン」を唄い、4時間半の交流会はあっという間に過ぎてしまいました。

翌19日はホームステイの方と女性5名全員が中央公民館で振袖の着付けを体験し、一人一人異なる帯の結び方に皆驚き、ホストの皆さんも是非着て見たいと希望され、学生と一緒に着物姿



ホストファミリー・日韓協会とも和気あいあい

で写真に納まりました。華やかな衣装に身を包んだ学生達は昨日と別人のようでなかなか着替えず、午後1時の獨協大学集合時間が気になり、急かしたほどの喜びようでした。

2日間の交流は大変充実した内容でした。

平成25年3月10日(日)

ダンスでつながる世界と私～ラテンダンス編 (文化教養部会)

本年度から始まった新企画でもあり、参加者数が懸念されましたが、予想に反して草加市文化会館レセプションルームの最大収容人数の80名の参加があり、盛況なイベントとなりました。市内にはダンスのグループも90団体以上存在し、音楽の街「草加」であるとともに「ダンスの街」と言っても過言ではなさそうです。

「ダンスでつながる世界と私～ラテンダンス編～」として、サンバとサルサを体験いたしました。プロジェクターによるダンスの歴史、楽器の体験、踊り方のレクチャー、そして参加者全員でダンスの体験という内容でした。座って傍観する人もあろうとの予測をよそに、誰一人として傍観することなく体験できたことは主催者として喜びの極みでした。ラテン編ということで南米のお菓子とマテ茶を提供したところこれも完食いただき、全てにおいて予定していたプログラムを完全燃焼できました。これからの開催に期待が多数寄せられていることもアンケートから読み取り、次年度以降の発展が期待できます。

ダンスというと恥ずかしくて踊らないのではないかと、慣れないダンスはステップから難しそうといった感想は皆無でありこの試みとなったある南



先生の指導で軽快にステップ 皆さん上手でした

米出身の方の言葉「人間だったら踊るの当然！」が正に信憑性があることを体感・実感・確信いたしました。ダンスでつながる草加市民の心と心、体と体。触れ合う手と手、初めて出会う瞳の中に、この街を愛する人々の情熱が伝わりあう、そんなひと時を頂いたことであります。ひいては市民の信頼的交流を推進出来ることを大いに期待できる事業であろうし、今後は外国籍市民も大いに参加を促して、世界理解の一助としたいことであります。ダンスを指導して下さった「浅野政夫さん」にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

昨年7月、草加市出身のJICA日系社会青年ボランティアの市川隊員・井上隊員が2年間の任務を終え、報告を兼ねて草加市長並びに協会長を表敬訪問。彼らの活躍を通して海外の事情・実情を広く草加市民に伝える義務があると強く感じ、初めての試みとして、国際村一番地にも果敢に協力して下さっている県立草加高校での講演を企画しました。

体育館を使い全校生徒が集う中JICAの活動と隊員の経験を通して、国際理解を推進しようという試みです。両隊員は次の任務等に赴くため日程が合わず、同じ草加市出身の日系社会青年ボランティア経験者菅谷歩美隊員からお話を伺うことに。実家は市内お煎餅屋さんで草加高校出身ということもあり、学校側も非常に協力的で、講演までスムーズに事が運んだことも今回大きな成果でした。菅谷さんは高校生の頃には、非常に内気でおとなしい性格であったそうです。そんな彼女も一念発起！ポリビアの日系社会で見た現状をきっかけに日系社会青年ボランティアへ参加。研修を終え赴任したアルゼンチンでは、日系社会に日本文化を伝えるという使命で、日本文化のひとつ風呂敷包みを伝えたところエコである包装がヒット！

彼女の帰国後も、現地では風呂敷研究会等が盛



先輩の話を通じて自身の未来に活かしてください

んに行われるなど彼女の伝えた功績は大きかったとのこと。なせば成るを絵に描いたような彼女の決断は、多くの高校生に現在の学業と今後歩むべき人生という大きな岐路を見せることが出来たように感じました。物静かな彼女の中に明るい私たちが進むべき心豊かな日本の姿を垣間見、彼女の話から多くの励ましと、自分に何が出来るのかという人生の問いにも似た感触を受けるのは部会員だけでは無かったはずです。

次年度は他校や市民にもこの話を伝えられたら素晴らしいだろうと当部会では考えています。

平成25年度総会のお知らせ

次の通り総会を開催しますので是非ご出席ください。総会終了後簡単な懇親会も開きます。

日時:平成25年5月22日(水) 午後6時から

場所:草加市文化会館レセプションルーム

本年1月発行の「協会通信19号」でもお知らせいたしましたように、カーソンの姉妹都市協会草加部会長で草加市との姉妹都市交流に大きく貢献された「キャロル アン モリさん」が昨年11月にご逝去されました。このたび、キャロルさんとゆかりのある方から弔意を表すメッセージを頂きましたので、今回のニュースレター別刷りでお届けいたします。

あなたも会員になって国際交流・協力活動をしませんか(入会申込みは随時受付中です)

- 姉妹都市・友好都市との交流
- 国際交流イベントの企画・運営
- 外国籍市民との交流
- 外国語・パソコンなどの特技を生かす協力

年会費 個人 2,000円 (高校生以下1,000円) 団体 (1口) 5,000円 ・法人 (1口) 10,000円

申込先 草加市国際交流協会事務局 (草加市役所文化観光課内)

〒340-8550 草加市高砂1-1-1 電話 048-922-2968 FAX 048-922-3406

Eメール sia@soka.ne.jp

ホームページ <http://www3.alpha-net.ne.jp/users/sia021/index.htm>

カーソン市姉妹都市協会草加部会長「キャロル アン モリさん」をしのいで

昨年11月12日にカーソン市姉妹都市協会のキャロル アン モリさんがご逝去されましたが、彼女は草加市とカーソン市との交流の懸け橋として大変理解のある方でした。多くの方が彼女との交流がありますが、今回は上山さんと田川さんに追悼文を頂きましたのでご紹介をいたします。

その他にも多くの方々が同じように残念な思いをされているでしょうが、彼女のこれまでの貢献に報いるためにも、引き続いて両市の交流の輪を広げていきたいと思います。

(海外都市交流部会副会長 渡邊 富美)



2004年渡米した草加市青少年派遣団と
(中央奥がキャロルさん)

Carol Ann Mori を偲んで

かみやま よしこ
上山 辰子

昨年の晩秋にキャロルが他界したことは、私に大きな喪失感を与え、しばし言葉を失った。ここに追悼の気持ちをこめて、キャロルの人生の一コマを再現し、面影を分かち合いたいと思う。ニューヨークの同時多発テロの数か月後、キャロルから連絡が入り、「多くの犠牲者を偲んで、USA ボランティアは今、巨大なパッチワークを作成している。わかる限りの犠牲者の名前とその家族の言葉を縫い込んでいるが、日本人犠牲者の名前を知る手立ては無いものだろうか」という内容だった。日本人は不幸に遭遇した時、すぐにはそれをオープンにしない特性があり、手を尽くしたがこの活動は日本では難航した。しかし、キャロルの社会貢献の精神と素早い行動に鼓舞され、活動を共有できたのは、私の得難い糧となった。

市の交流レベルを超え、国のレベルで社会問題に向き合う、そんなポジティブなキャロルの明るい声が、今も私の脳裏に響く。

上山さんは協会設立当時からの会員で元副会長です。

キャロル森さんとの思い出

たがわ ゆうぞう
田川 雄三

キャロル森さんとはいくつかの思い出がある。日米関係がもっと緊密だったころ、カーソン市使節団が来草した際、私どもの旅館に宿泊してくださった。その最終日の別れ際に涙をながして別れを惜しんでくれたこと。御子息であられるトラオ森君がわが家にホームステイをしたこと。それから数年後、夫妻が個人的に宿泊して下さって、再会した時、”Nice to meet you!”と言葉をかけてくださった。ミツル森さんが日本語で「また来てください」と、あの方は日本語がよくできるようだった。

森さん夫妻は姉妹都市に関することで並々ならぬ尽力をしてくださった。私達の知らないところで陰になり日なたになり力を尽くしてくださった。キャロル森さんの亡くなられたことは大変残念であり心よりお悔やみ申し上げます。

田川さんは平成5年市民使節団員としてカーソン市制25周年式典に参加以来の会員です。